

スクミリンゴガイの

初めての**食害も同時に防止する**

水稲用除草剤です。

パックを投げ入れるだけで
スクミリンゴガイの
食害防止と除草剤散布が
一度に行えます。



投げるだけ!!
の簡単散布



省力型 水稲用一発処理除草剤

ショウリョク

ジャンボ



ショウリョク ジャンボ

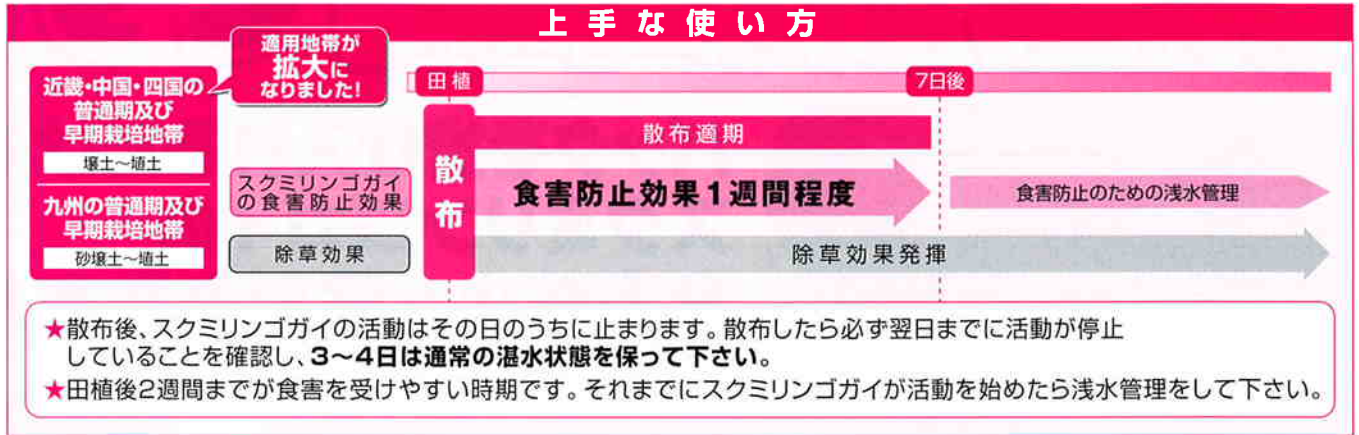
有効成分

- イマズスルフロン ……1.8%
- カフェンストロール ……4.2%
- ダイムロン ……20.0%
- ペンスタップ ……32.0%

特長

- ① スクミリンゴガイの食害防止と除草剤散布が一度に行えます。
- ② 投げるだけのジャンボ剤なので省力的!

上手な使い方



適用と使用方法

2008年1月現在(太字は2007年8月適用拡大)

| 作物名 | 適用害虫名及び雑草名 | 使用時期 | 適用土壌 | 10アール当り使用量 | 本剤の使用回数 | 使用方法 | 適用地帯 | 使用量 | | | | | | | | |
|----------------------|---|-----------------------------|-------------------------------|-------------------|---------|---------------------|----------------------|--|---------------------|------|------------------|-------------------------------|----------------------|----|-------------------|------------------------|
| 移植水稲 | スクミリンゴガイ(食害防止)及び水田一年生雑草 | 移植直後～ノビエ2葉期 ただし、移植後30日まで | 壤土～埴土 | 小包装(パック)10個(500g) | 1回 | 水田に小包装(パック)のまま投げ入れる | 近畿・中国・四国の普通期及び早期栽培地帯 | <p>●10アール(1反)では10個を投げ込む。(6～7m間隔で)</p> <p>●バックを破らずにそのまま投げ入れて下さい。</p> | | | | | | | | |
| | マツバイ ホタルイ ミスガヤツリ ウリカワ ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類による表層はく離 | | 砂埴土～埴土 | | | | 九州の普通期及び早期栽培地帯 | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | <table border="1"> <tr> <td>イマズスルフロンを含む農薬の総使用回数</td> <td>2回以内</td> <td>ダイムロンを含む農薬の総使用回数</td> <td>3回以内 (育苗箱散布は1回以内、本田では2回以内)</td> </tr> <tr> <td>カフェンストロールを含む農薬の総使用回数</td> <td>1回</td> <td>ペンスタップを含む農薬の総使用回数</td> <td>4回以内 (育苗箱への処理は1回以内)</td> </tr> </table> | イマズスルフロンを含む農薬の総使用回数 | 2回以内 | ダイムロンを含む農薬の総使用回数 | 3回以内 (育苗箱散布は1回以内、本田では2回以内) | カフェンストロールを含む農薬の総使用回数 | 1回 | ペンスタップを含む農薬の総使用回数 | 4回以内 (育苗箱への処理は1回以内) |
| イマズスルフロンを含む農薬の総使用回数 | 2回以内 | ダイムロンを含む農薬の総使用回数 | 3回以内 (育苗箱散布は1回以内、本田では2回以内) | | | | | | | | | | | | | |
| カフェンストロールを含む農薬の総使用回数 | 1回 | ペンスタップを含む農薬の総使用回数 | 4回以内 (育苗箱への処理は1回以内) | | | | | | | | | | | | | |

| 主要雑草に対する散布時期 | ノビエ・ホタルイ ウリカワ・ミスガヤツリ | 2葉期まで | ヒルムシロ | 発生期まで |
|--------------|-------------------------|-------|------------------|-----------|
| | | | セリ | 再生前～再生始まで |
| | | | アオミドロ・藻類による表層はく離 | 発生前 |

【使用上の注意】

- スクミリンゴガイに対しては、食害防止を目的としているので、発生している場合には、所定の使用時期の範囲内で速やかに使用して下さい。発生が著しい場合には、他の有効な剤と組み合わせて使用して下さい。本剤は殺虫効果がないので、水田以外の生息地には決して使用しないでください。
- 藻類または表層はく離の発生しやすい水田では、有効な剤との組み合わせで使用して下さい。
- 田植前に生育したミスガヤツリは、完全に防除してから使用することが望ましいです。
- 苗の植え付けが均一になるように整地、代かきは丁寧にを行い、ワラくずなどの浮遊物はできるだけ取り除いてください。また未熟有機物を施用した場合は特に丁寧にしてください。
- 処理に当たっては、水の出入りを止めて5～6cmの湛水状態に保ってください。処理後、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、田面を露出させたり、水を切らしたりしないでください。また、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。
- 自然減水により田面の一部が露出するようになったら、水尻を止めて通常の水深になるまで水を入れて水口を閉じてください。
- 藻や浮き草が多発している水田では、拡散が不十分となり効果の劣る可能性があるため使用をさけてください。
- バックに使用しているフィルムは水溶性なので、濡れた手で作業したり、降雨で破袋することがないように注意してください。
- 以下のような条件では薬害が発生する恐れがあるので使用をさけてください。特に、処理時または処理後数日以内に異常高温が重なる場合は、初期生育の抑制が顕著になるので注意してください。
 - ①砂質土壌の水田及び漏水の大きな水田(減水深が2cm/日以上)。
 - ②軟弱な苗を移植した水田。
 - ③極端な浅植えの水田。
- いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害する恐れがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意してください。
- いぐさ栽培予定水田では使用しないでください。
- 本剤を使用した水田の田面水は、他作物の湛水に用いないでください。
- 水溶性フィルム包装が破袋した場合は以下の点に注意してください。
 - 眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
 - かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
 - 水産動物に影響を及ぼすので、養魚田での使用はさけてください。
 - ドジョウにはやや影響があるので注意してください。

●農薬は正しく使いましょう! ●使用前にはラベルをよく読んで下さい。●ラベルの記載以外には使用しないで下さい。●小児の手の届く所には置かないで下さい。

2008年1月作成(全新企画社)020